聖路加国際病院シニアレジデンシープログラム
病理診断科コース　2014

■ 特色

当科は、病院の運営基本方針である「患者との協働医療」の実現、「根拠に基づいた医療」の実践に従い、臨床オリエンテッドな病理診断が行われている。病理解剖は数・質ともに体験でき、全例 CPC で発表報告し、検討が行われる。症例を選んでミニレクチャーが開催されている。組織診断、迅速診断、細胞診断は症例が多く、前 2 者はほぼ全例体験できる。臨床科とよく連携し、カンファレンス(内科、呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、一般外科、乳腺外科、泌尿器科、脳外科、皮膚科、形成外科、女性総合診療部)、学会、研究会への参加、他施設との連絡は多い。研究は臨床医学の発展に寄与するための医療現場に根ざしたものが基本となる。
当院は、日本病理学会、日本臨床細胞学会の認定施設であり、それぞれの専門医取得に充分な研鑽が可能である。

日本病理学会(http://pathology.or.jp/senmoni/board-certified.htm)
日本臨床細胞学会 (http://www.jscc.or.jp/)

■ GIO

- 卒後 7 年目に日本病理学会認定 病理専門医の取得をめざす。
- 病理診断は医療における診断部門の一翼を担っており、良い診療のためには良い病理診断が不可欠であることを理解し、それを行ううえでの知識、技術、態度を身につける。
  ※　日本臨床細胞学会認定医については、取得を義務付けない。取得希望者は相談にのる。

■ SBOs

1. 年間 10 例以上の剖検ができる。
2. チーム医療の構成員として科内および他部門と協調して病理を実施できる。
3. 他部門からの情報をコミュニケートできる。
4. カンファレンス資料の作成ができ、参加し討論できる。
5. 安全な医療を理解し実施できる。
6. 細胞診断ができる。
7. 術中迅速診断を実施する。
8. 組織診断を実施する。
9. 病理解剖で担当医からプレゼンテーションを受け、臨床像、検索要望事項を記述し、解剖を実施、診断と報告書作成ができる。
10. 術中迅速診断の手技を説明し、診断と報告ができる。
11. 病理報告書の作成ができる。
12. S1～S2、S3～S4 で 1 回ずつ学会発表か、論文作成ができる。

＜各専門医の取得要件＞　※　詳細は学会ホームページを参照ください。

① 日本病理学会認定　病理専門医
   1. 病理研修 4 年以上
   2. 死体解剖資格
      (ア) 3 病理学会員 3 年以上
      (イ) 4 剖検 40 例以上
   3. 講習会受講
   4. 人体病理学論文または学会発表

② 日本臨床細胞学会認定　細胞診専門医
   1. 臨床細胞学会会員 3 年以上

2. 細胞診断学研修 4 年以上
3. 細胞診断学に関連した学術論文
4. 細胞診講習会受講

■ LS

＜On the job training (OJT)＞

病理解剖：平均 2 例/月

組織診断：鏡顕はほぼ全例，報告書作成は 5-10 例/日

＜カンファレンス＞

- CPC
  - 毎月第 3 水曜日 16:00-17:30（トイスラーホール） 剖検例全例の結果報告、そのなかで重点例、教育的症例について、臨床・画像・病理プレゼンテーションのあと、総合討論を行う。
- 各科との合同カンファレンス： 教育的な症例、希少例、検討必要症例などを臨床プレゼンテーションのあと、病理の説明・解説を行い、総合討論する。
  - 乳腺外科 ：第 2 火曜 8:00-9:00 放射線科読影室
  - 脳神経外科 ：第 3 金曜 18:00-19:00
  - 皮膚科・形成外科 ：第 4 火曜 18:00-19:00
  - 泌尿器科 ：第 1 月曜 18:00-19:00．泌尿器科
  - 女性総合診療部 ：月曜日 18:00-19:00
- 術前カンファレンス： 次週の手術例について臨床、画像、病理のプレゼンテーション、術前検討を行う。
  - 乳腺外科 ：金曜 7:50-9:00．放射線科読影室
  - 消化器・一般外科についても適宜開催

＜学術活動＞

1 学会発表
2 論文発表
3 研修医（ジュニアレジデント）の臨床研究の支援、文献検索やデータ収集・分析を援助する。

＜留意事項＞

※本コースは 4 年間の一貫研修を原則としているが、中途からの（たとえば他院での 2 年間の後期研修ののち本プログラムに S3 から合流する場合など）エントリーも許容している。この場合は S1 からの研修プログラムに従うではなく、それまでの経験実績を踏まえて継承的に研修を進めることができる。

■ EV

- **A. 専門研修医としての基本姿勢・態度の評価について**
  専門研修管理委員会が全科共通の EV（評価）として年１回実施する 360 度評価による（詳細は別紙をを参照）。その結果は委員会によって適切に本人ならびに診療科にフィードバックされる。
- **B 知識・技術評価**
  ① 自己評価： 日本病理学会認定専門医のガイドラインに準じて経験症例、手技を記載し、到達度を確認する。また、上記 SBOs の手技的達成が順調に進んでいるかをチェックする。
  ② 指導医による評価：半年に 1 度部長による面接を実施し、達成についての確認と上司からの評価，進路の相談等を行う。
  ③ 専門研修管理委員会が指定した担当者が、1 年に１回以上、研修医へヒアリングを行い、研修の進捗状況を確認し、研修指導責任者と共有して研修計画の改善に役立てる

※ 専門研修管理委員会は A. 態度評価ならびに B. 知識技術達成度評価の両方について検討し、必要なフィ

ードバックを専門研修医に向けて実施するとともに、その研修達成が目標をクリアーしているか、足りない部分について何をなすべきかを診療科研修責任者と協議し、期間内の満足すべき研修修了達成に向けて最大限の努力をする。

■ 専門研修医の職能権限（privilege）

- 専門医を目指す者として、診断（問診・身体診察・検査指示ないし実施）ならびに術前術後管理、手技（手術・処置）、評価、他科・他部署コンサルテーション，非手術的治療、医療記録記載、方針に関する患者・家族への説明（インフォームドコンセント取得）に関して、attending doctor(s)ないし専門医資格を有する医員の指導のもと、実施する権限を有する。従って手技・手術施行時には、指導医のもと実施した旨の記載が都度求められる。

- 厚生労働省が定める初期臨床研修医研修を終了しており、一般的な併存疾患（common disease）に対する基本的診断、治療、コンサルテーションを、attending doctor(s)ないし認定医資格を有する医員の承認のもと、行う権限を有している。

【別表】　　シニアレジデント評価システム

大項目	中項目	小項目	評価	具体的な観察のポイント
【1】医療者としての態度	1社会人としての態度	①挨拶・言葉遣い	0.1.2.3.4.	●患者・周囲の職員に対する言葉遣いに留意し、挨拶をきちんとしているか？
		②ルール	0.1.2.3.4.	●社会や職場のルールを遵守し、慣行に配慮しているか？
		③身だしなみ	0.1.2.3.4.	●医療者としてふさわしい服装・身だしなみを 保っているか？（不信感・不快感を与えない、清潔・清潔感）
		④時刻を守る	0.1.2.3.4.	●診療・業務ミーティングの開始時刻・時限を守っているか？
		⑤健康管理	0.1.2.3.4.	●業務に備えて、心身の自己管理ができているか？
	2安全管理	⑥医療安全に関する知識を持ち、これに基づいて適切に行動できる	0.1.2.3.4.	●医療安全に関する知識を持ち、これに 基づいて行動しているか？
		⑦感染対策に関する知識を持ち、これに基づき適切に行動できる	0.1.2.3.4.	●感染対策に関する知識を持ち、これに基づいて適切に行動しているか？
	3職業倫理	⑧医の倫理・生命倫理に配慮した行動がとれる	0.1.2.3.4.	●患者に対して敬意を払い、患者の自律性を尊重しているか？ ●患者・家族の思い、立場を配慮した行動ができているか？
		⑨患者のプライバシーに配慮した行動がとれる	0.1.2.3.4.	●患者のプライバシーに配慮しているか？羞恥心や自尊心に配慮しているか？
	4学習及び教育態度	⑩自己啓発の努力をしている	0.1.2.3.4.	●積極的に、日常業務、知識・技術の向上に取り組んでいるか？ ●積極的に院内カンファレンス、学術集会などに参加し、研究にも関心があるか？
		⑪他者啓発の努力をしている	0.1.2.3.4.	●同僚・後輩・他職種に対して指導、教育を行い、メンタル面でのサポートを行う姿勢があるか？ ●自分が上から与えられたことは、下に与えることで報いようとする姿勢があるか？
【2】患者との関係	1傾聴・共感	⑫患者・家族に対して傾聴の態度を示し、共感することができる	0.1.2.3.4.	●患者・家族の話を傾聴し、不安・苦痛を理解しようと努力しているか？
	2患者との協働医療	⑬患者・家族の意思を尊重して医療を展開する姿勢がとれる	0.1.2.3.4.	●患者のニーズ・思いを理解し、それを尊重した行動をとろうとしているか？ ●いわゆるインフォームドコンセントを正しく実践しているか？
	3コミュニケーション	⑭患者・家族と良好なコミュニケーションがとれる	0.1.2.3.4.	●専門用語を控え、わかりやすく説明する姿勢があるか？

【3】チーム医療	1 情報共有	⑮多職種と良好なコミュニケーションを取ることができる	0.1.2.3.4.	●他の職種と良好なコミュニケーションを取り、信頼関係の維持に配慮しているか？ ●適切に上級者、他職種と連携しているか？
	2 協働	⑯多職種チームにおける自分の役割を認識し、それが遂行できているか？他職種との連携に配慮しているか？	0.1.2.3.4.	●多職種チームの一員として自分に求められる機能を自覚し役割遂行の努力をしているか？ ●自分の限界に気づき、自分の失敗や怠慢を素直に認めることができるか？ ●自分と異なる意見に耳を傾け、冷静に意見交換できるか？
【4】医療記録・症例提示	1 医療記録	⑰診療録を迅速かつ的確に記載できる	0.1.2.3.4.	●日々のチャート・サマリーなどを遅滞なく、適切に記載しているか？ ●インシデント・アクシデント報告を遅滞なく適切に行っているか？ ●紹介状・返書文書、診断書・報告書などの文書を遅滞なく適切に作成したか？
	2 症例把握・診療方針の立案、及び、その提示	⑱的確で適時的な問題の把握、対策立案、及び、その提示ができる	0.1.2.3.4.	●患者の状態、問題点など、的確に把握し、説明できているか？ ●経験期間に応じた臨床知識・技術を有し、適切な診療（検査・診断・治療・フォロー）ができるか？ ⇒病歴収集・身体所見・検査所見の判断、及び治療計画の適切さ、問題の優先度の判断、緊急度の判断と対応能力など
【5】医療の社会性	1 医療の社会性	⑲保健医療法規・制度に則った診療ができる	0.1.2.3.4.	●医師法・医療法・刑法（守秘義務）・個人情報保護法などを理解した判断、行動ができるか？
		⑳制度や社会資源を利用した医療を提供できる	0.1.2.3.4.	●診療報酬制・介護保険制度・公費負担制度などの理解し、それに必要な書類が記載できるか？制度上や保険請求上、必要な書類・チャートの記載ができるか？

4=期待を超えてとてもよかった
3=ほぼ期待どおりであった
2=期待以下であった
1=不適切であった